

地球環境基金助成金説明会 事例紹介

NPO法人時ノ寿の森クラブ
大石淳平



目次

1. 団体紹介
2. プロジェクトについて
3. 成果と課題
4. 今後の展望

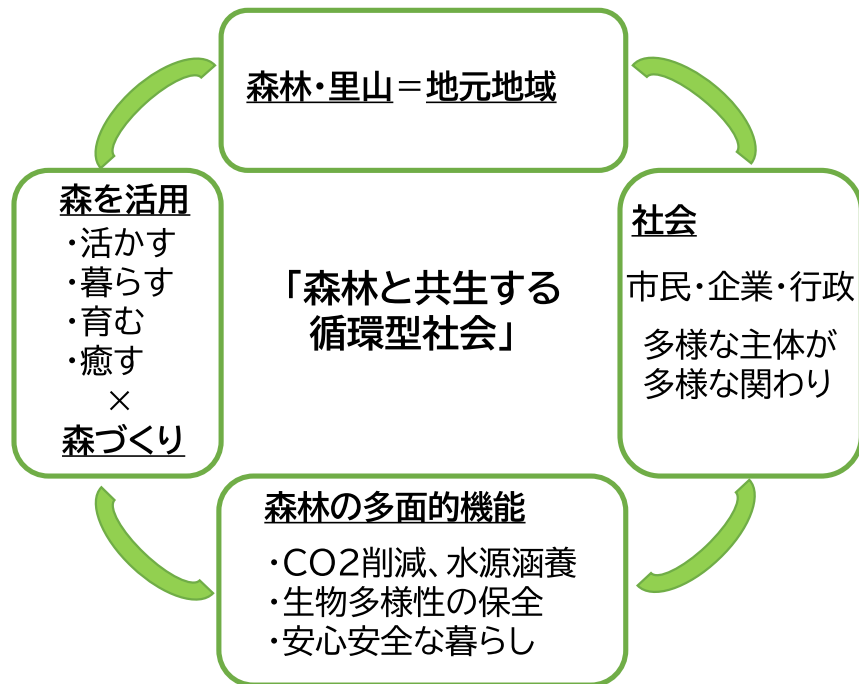
1. 団体紹介

林業が成立しない民有林で、2006年活動開始

- ・ 1975年 廃村（代表 松浦の故郷）
- ・ 人が去り、人工林が荒廃
- ・ 所有者から承諾を得て、森林再生スタート



目的・ビジョン



未来の子どもたちへ
豊かな森を引き継ぐ

森林と共生する循環型社会の実現へ



事業内容



市民参加の植樹活動



月2回の土日型 森のようちえん



森の中に佇むゲストハウス運営



山からまちへの木づかい

①森林保全

- ・行政、企業、市民の参加による森づくり
- ・間伐、植樹、育樹等の森の手入れ

②資源循環

- ・森の恵みを社会へ提供する
- ・木材製品の販売、ゲストハウスの運営等

③普及啓発

- ・活動へのファンづくり、次世代の人づくり
- ・森のようちえん、小中学校環境学習等

地球環境基金助成事業について



市民、企業参加の植樹活動



未就園児と保護者対象プログラム(2019～)

- 1期目) 2016年度～2018年度
- 2期目) 2019年度～2021年度
→2年目



親子体験プログラム(2019～)



小中学校への環境学習

プロジェクトの位置づけ
→「森と共生する循環型社会」の
実現のための根幹

2. プロジェクトについて

プロジェクトについて

森林・里山を **社会財** として **シェア** し、

持続可能な森林保全を目指す

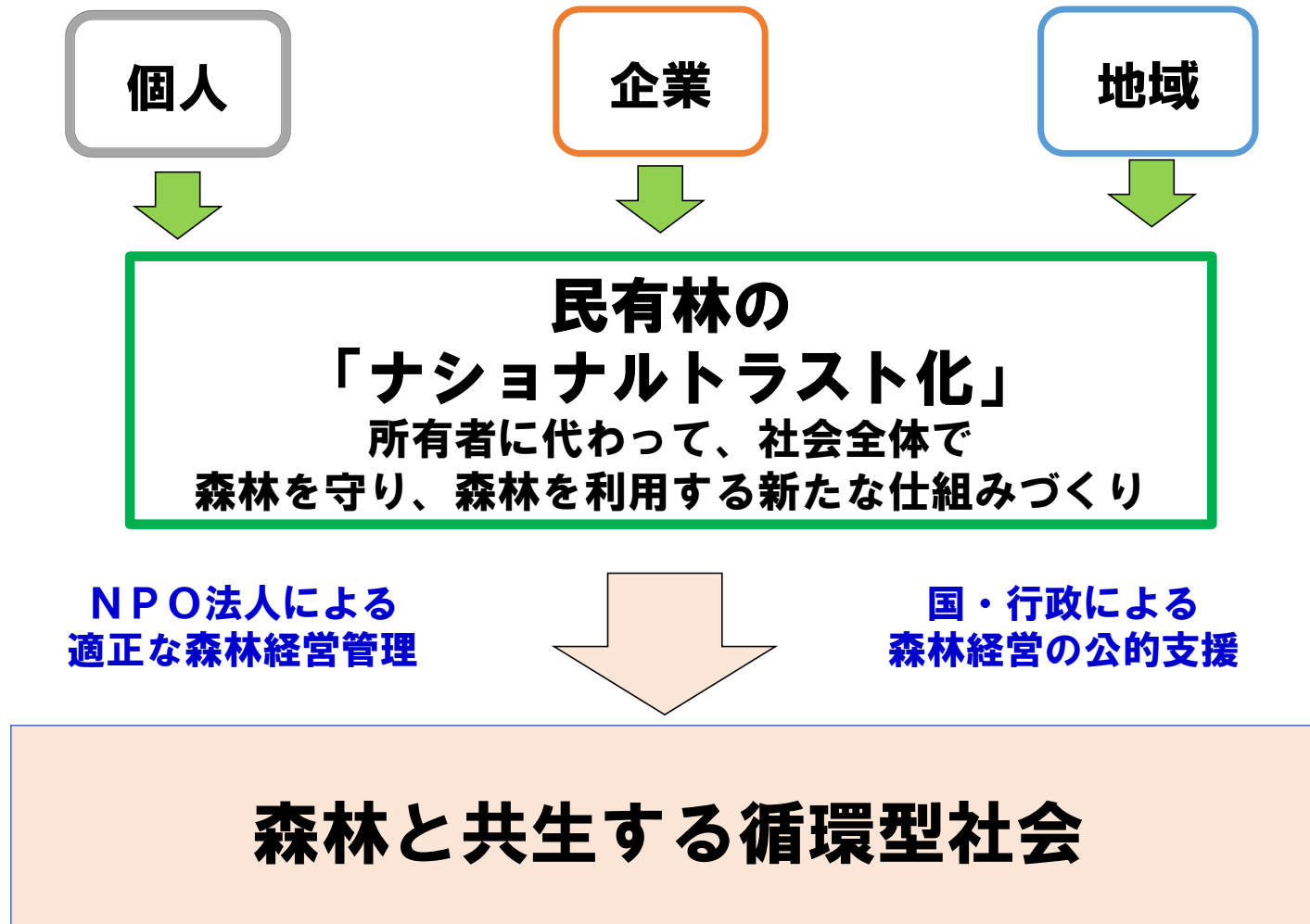
プロジェクト キーワード



森林・里山と人を結ぶ設計図 「時ノ森 夢マップ」

1. 社会財
2. シェア
3. 所有者

プロジェクトの重点事項



プロジェクト 活動内容

森林・里山の公益的機能が維持、森の価値を「分かち合う」暮らしが“地元地域“や”まち”に生まれ始める。

活
動

1. ナショナルトラスト的制度づくり
(所有者との協定、制度設計、企業等の参加)
2. 森林里山の持続的保全活動
(森の手入れ、新たな参加者の巻き込み、人材確保)
間伐・植樹・育樹/森林ボランティア体験等
3. 森林里山の持続可能な利活用
(多様な世代が利用できるコンテンツ、プログラム企画)
森のようちえんを軸とした体験プログラム、
グリーンツーリズム、人材育成等

プロジェクト 活動内容



土日型の森のようちえん



森のようちえんの親子に保全活動へ



大学の実習地として受入れ



小学生対象のプログラム[森のキッズ]



森林ボランティア育成



企業人材研修の受入れ

3. 成果と課題

成果と現状

昨年の主な成果

1. ナショナルトラストへ結びつく「企業の森づくり」に、2社から締結の内諾を得た。
2. 森のようちえんを軸に前後の年齢の子どもたちや保護者が参加できるプログラムを新たに3つ企画・運営した。

今年度の主な現状 (コロナの影響等)

- ・コロナの影響により、1社が保留状態。もう1社は来月に締結予定。
 - ・ナショナルトラスト制度づくりに関して、別の企業と具体的に協議中。
-
- ・コロナの影響により、今年度のスタートが遅れた。
 - ・森のようちえん、参加人数が去年の2.76倍(36人)に増加、2コースに拡大。
-
- 【その他 団体のコロナの影響】
- ・事業収入の大幅な減少
 - ・予算規模縮小による人材不足

4. 今後の展望

今後の展望

- ①コロナにより、働き方が変化。企業へ「里山オフィス」など提案し、新たな視点での利用に結び付けたい。
- ②企業との協議を重ね、皆でシェアできる森を具体化する。
- ③既存の体験プログラムを拡充させる。ナショナルトラスト制度との連動性を深める。

